



2026年6月26日

各位

会社名 三協立山株式会社
代表者名 代表取締役社長 社長執行役員 平能 正三
(コード番号 5932 東証プライム市場)
問合せ先 広報・IR 部長 原田 得治
(TEL 0766-20-2332)

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2026年4月7日に公表いたしました2026年5月期通期連結業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。また、当連結会計年度において、特別損失を計上することになりましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

2026年5月期通期連結業績予想数値の修正（2025年6月1日～2026年5月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	355,000	1,000	100	2,000	63.82
今回修正予想 (B)	357,000	1,500	800	△14,000	△446.74
増減額 (B-A)	2,000	500	700	△16,000	—
増減率 (%)	0.6	50.0	700.0	—	—
(ご参考) 前期実績 (2025年5月期)	359,424	1,545	944	△2,336	△74.54

(注) 上記の予想は、本資料の公表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 修正の理由

2026年5月期通期連結業績予想につきましては、国内の新設住宅着工の大幅な減少、主材料であるアルミ地金価格の想定を上回る高騰に加え、海外での地政学リスクや関税動向に伴う世界経済の減速など、極めて厳しい状況で推移しております。

このような環境下、収益構造改革による固定費の削減や間接コストの抑制、及び価格改定の浸透が寄与し、売上高、営業利益、経常利益は、前回発表予想を上回るものと見込まれます。

一方、親会社株主に帰属する当期純利益は、160億円の固定資産の減損損失を計上することにより、前回発表予想を下回るものと見込まれます。

3. 建材事業に係る固定資産の減損損失（特別損失）について

当連結会計年度においては、収益構造改革の強力な推進により一定の効果を創出しました。しかしながら、主材料であるアルミ地金価格は長期にわたり上昇基調が続いており、市場の将来予測が難しい状況から従来の価格ヘッジが有効に機能していない中、中東情勢の緊迫化を中心に価格上昇圧力が強まり、高い水準となっております。このような状況下において、原価感応度が高くなる一方、当社の建材事業は、現状は急激な価格上昇に対して販売価格への転嫁に遅効性がある事業特性と言わざるを得ません。外部環境の急激な変化に対して、極めて厳しい経営環境が発生しております。今後の収益計画を慎重に見直した結果、建材事業に関する固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として160億円計上する見込みです。

4. 配当予想について

2025年7月10日公表の年間配当額25円（中間配当12.5円、期末配当12.5円）から変更はございません。

5. 役員報酬の減額について

今回の建材事業の減損損失計上を真摯に受け止め、経営責任を明確にするため、全業務執行役員については、2027年5月期の報酬を以下のとおり減額いたします。

(1) 役員報酬減額の内容

取締役社長執行役員	月額報酬の30%減額
取締役常務執行役員	月額報酬の25%減額
常務執行役員	月額報酬の15%減額
執行役員	月額報酬の10%減額

(2) 対象期間

2026年7月から3か月間

以 上